

チリ経済情勢報告(2026年8月)

＜概要＞景気はこのところ一部に弱い動きが見られる。

- 消費は一部に弱い動きが見られる。
- 生産は、工業、鉱業ともに減少。企業マインドは良化している。
- 失業率は上昇している。
- 物価は上昇している。
- 貿易は黒字となっている。
- 銅価格は上昇、為替はペソ安傾向、株価は上昇で推移している。

先行きについては、財政・税制などの国内政治動向及び米国の通商政策、中東情勢の影響等を含む世界経済情勢に留意する必要がある。

1. 経済指標

(1) GDP成長率(2026年Q2)

2026年の第2四半期(4～6月期)の実質GDP成長率は前年同期比▲0.2%と、2期連続で減少した。また、季節調整済前期比の伸び率も▲0.0%と減少した。

① 需要項目別の動向

内需は前年同期比0.1%となった(寄与度0.1%)。消費は前年同期比1.3%(寄与度1.0%)となった。内訳は、民間消費が同1.2%、政府消費は同1.8%となっ

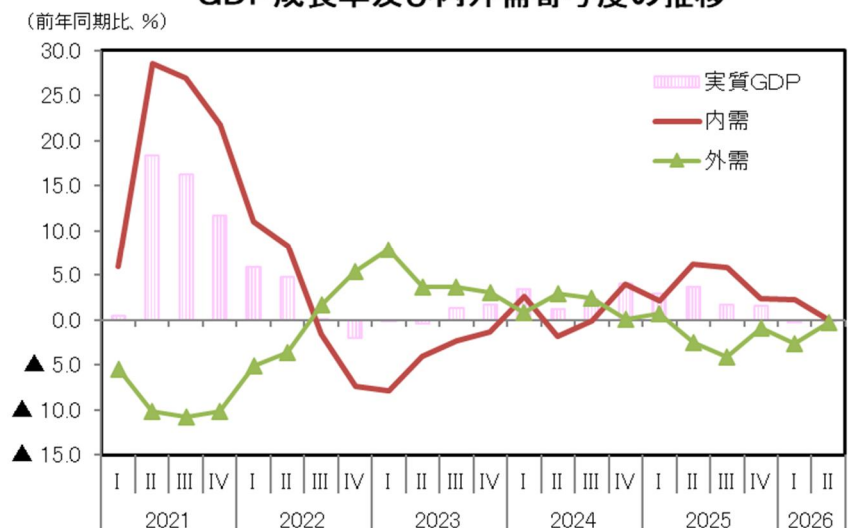
た。総固定資本形成は前年同期比0.0%(寄与度0.0%)となった。内訳を見ると、機械・設備投資が同3.7%、建設・住宅投資が同▲2.4%であった。在庫品増加は寄与度▲0.9%であった。

外需の寄与度は▲0.3%となった。輸出は前年同期比▲2.1%となった。品目別では銅が同▲8.9%、鉱業品全体は同▲5.3%となった。財全体では同▲1.9%、農林水産品は同3.2%となった。輸入は同▲1.6%であった。

② セクター別の動向

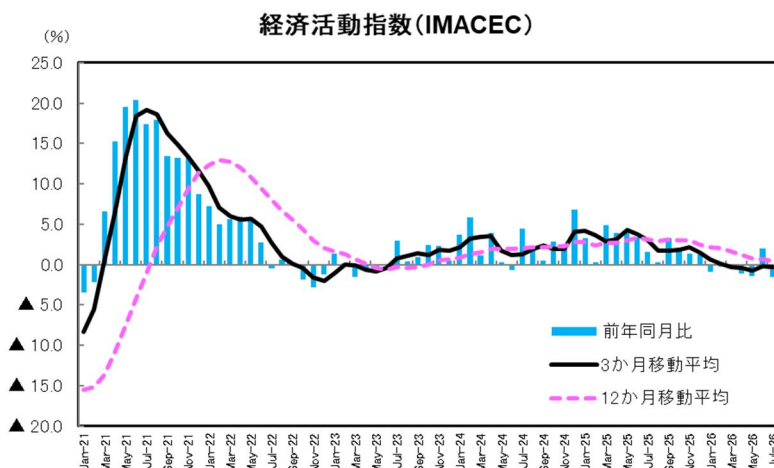
セクター別では、銅が前年同期比▲10.5%となり、その他の鉱業は同23.8%となった。鉱業全体では同▲6.4%となった。製造業は同▲0.3%、農林業は同▲0.3%、水産業は同▲5.9%となった。

GDP成長率及び内外需寄与度の推移



(2) 経済活動指数 (IMACEC) – 前年同月比 ▲1.5% –

7月のIMACECは、前年同月比 ▲1.5% (季節調整済前月比は ▲1.7%) となった。営業日数は昨年と同じであった。鉱業は前年同月比 ▲9.3%、非鉱業部門は同 ▲0.3% であった。季節調整済前月比では、鉱業は ▲9.4%、非鉱業部門は ▲0.5% となった。



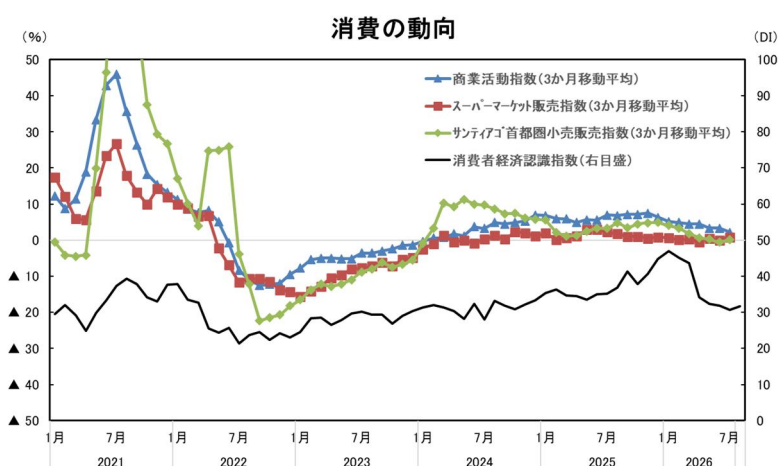
(3) 消費 – 一部に弱い動きが見られる –

① 7月の商業活動指数(実質、INE公表)は、前年同月比 ▲0.2%、同指数の小売業(除く車)は同 2.3% となった。
② 7月のスーパーマーケット販売指数(実質、INE公表)は、前年同月比 2.1% となった。

③ 7月のサンティアゴ首都圏州小売販売指数(チリ商工会議所公表、既存店、暫定値)は、前年同月比 2.0% となった。

④ 8月の消費者経済認識指数(IPEC、GfK Adimark公表)は31.7(前月差1.0)、個人の景気認識(現状)は32.9(同 ▲0.1)と、引き続き50(中立点)を下回っている。

⑤ 8月の新車販売台数は、2万7,896台(前年同月比1.6%)となった。

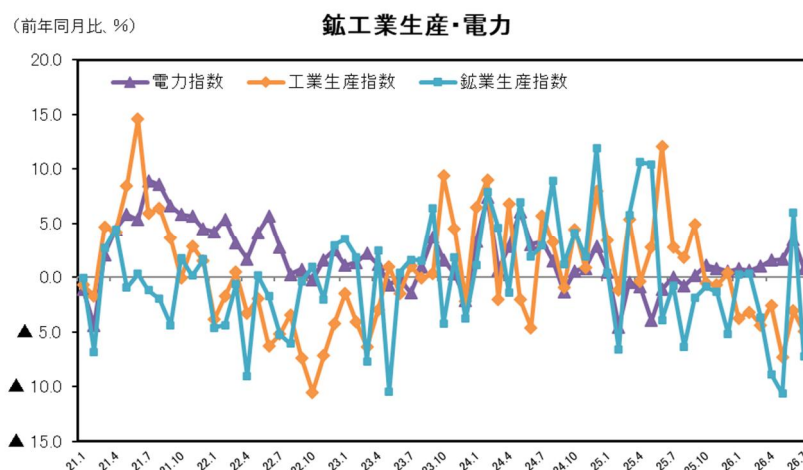


(4) 鉱工業生産、電力 – 工業、鉱業ともに減少 –

7月の工業生産指数は、前年同月比 ▲4.9% となった。セクター別では紙製品が増加(寄与度 0.3%)、石油製品が減少(同 ▲1.0%)に寄与した。

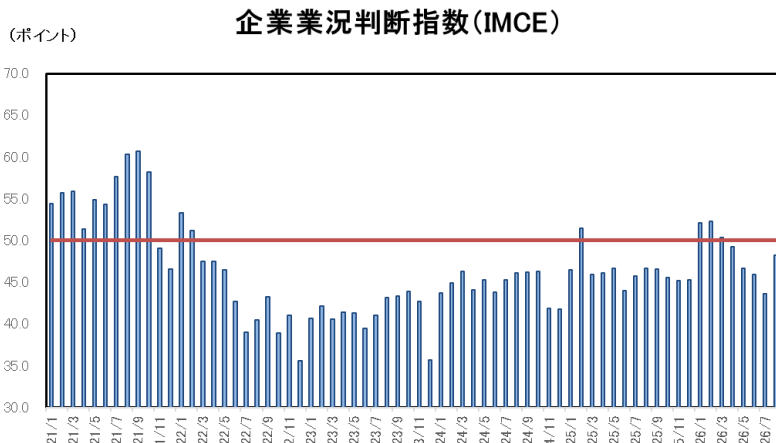
7月の鉱業生産指数は、前年同月比 ▲7.2%、銅生産量は同 ▲9.4% となった。

7月の電力指数は、前年同月比 0.8% となった。



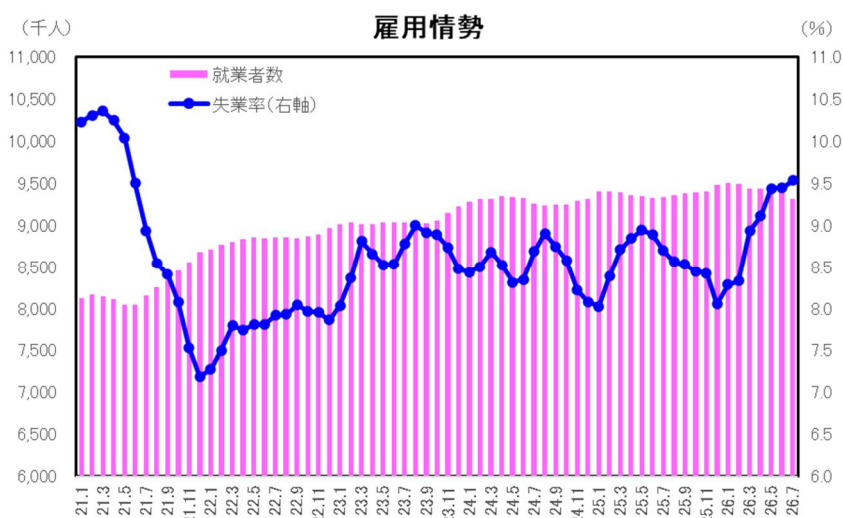
(5) 企業の業況判断－良化－

8月のIMCE（企業業況判断指数）は48.2ポイントで、前月差4.6ポイントとなり、5か月連続で中立点を下回った。内訳を見ると、鉱業が61.4（同19.7ポイント）、商業が53.1（同2.2ポイント）、製造業が45.0（同0.1ポイント）、建設業が34.4（同1.4ポイント）となった。



(6) 雇用－失業率は上昇－

5～7月期の失業率は9.5%（前年同期差0.8%）と、高い水準にある。労働力人口は7万5,779人増加（前年同期比0.7%）、就業者数は1万6,292人減少（同▲0.2%）し、失業者数は9万2,071人増加（同10.4%）している。就業者数を職業別にみると、科学技術分野が前年同期比寄与度0.3%と増加に寄与し、情報・通信業が同▲0.4%と減少に寄与している。



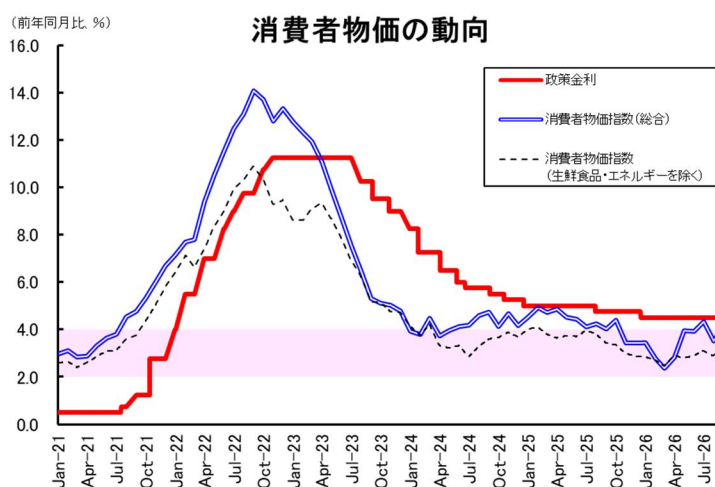
7月の賃金（速報値）は、名目は前年同月比7.8%、実質は同4.1%となった。

(7) 物価－上昇している－

8月の消費者物価指数（総合）は、前月比は0.6%、前年同月比は4.1%となった。品目別に前年同月比の動きを見ると、運輸（6.8%）、レストラン・ホテル（6.6%）等が上昇した。なお、生鮮食品・エネルギーを除く指数は、前月比0.4%、前年同月比3.5%であった。

中央銀行アンケート（9月）によるインフレ期待は、1年後：3.3%（前月3.1%）、2年後：3.0%（前月3.0%）となっている。

7月の生産者物価（全産業）は、前月比1.9%、前年同月比は20.5%となった。鉱業（前年同月比34.7%）、製造業（同6.5%）等が上昇した。

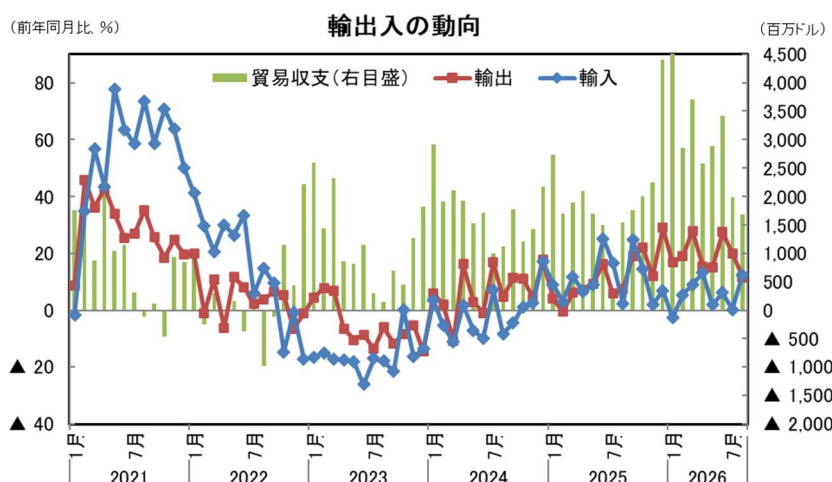


（８） 貿易－黒字となっている－

① ８月の輸出額（FOB）は、95.0億ドル（前年同月比11.8％）となった。内訳を見ると、鉱業品57.2億ドル（同9.5％）（輸出額全体の60.2％）、農林水産品5.4億ドル（前年同月比17.8％）（輸出額全体の5.7％）、製造業品32.4億ドル（前年同月比15.0％）（輸出額全体の34.1％）となった。鉱業品のうち、銅は46.3億ドル（前年同月比▲3.2％）（鉱業品輸出額全体の80.9％）となった。

② ８月の輸入額（FOB）は、78.1億ドル（前年同月比12.5％）となった。内訳（CIF）は、消費財23.7億ドル（同16.5％）、中間財43.7億ドル（同20.5％）、資本財16.9億ドル（同▲6.3％）となった。

③ ８月の貿易収支（FOB）は、16.9億ドルの黒字となった。



（９） 対日・中・韓・米貿易

① 対日貿易（FOB）：８月の貿易額は、輸出額7.2億ドル（前年同月比21.5％）、輸入額1.4億ドル（同8.6％）、貿易総額では8.5億ドル（同19.2％）となった。

② 対中貿易（FOB）：８月の貿易額は、輸出額29.5億ドル（前年同月比▲15.2％）、輸入額24.4億ドル（同10.8％）、貿易総額では53.9億ドル（同▲5.1％）となった。

③ 対韓貿易（FOB）：８月の貿易額は、輸出額5.9億ドル（前年同月比45.5％）、輸入額1.0億ドル（同▲32.0％）、貿易総額では6.9億ドル（同24.9％）となった。

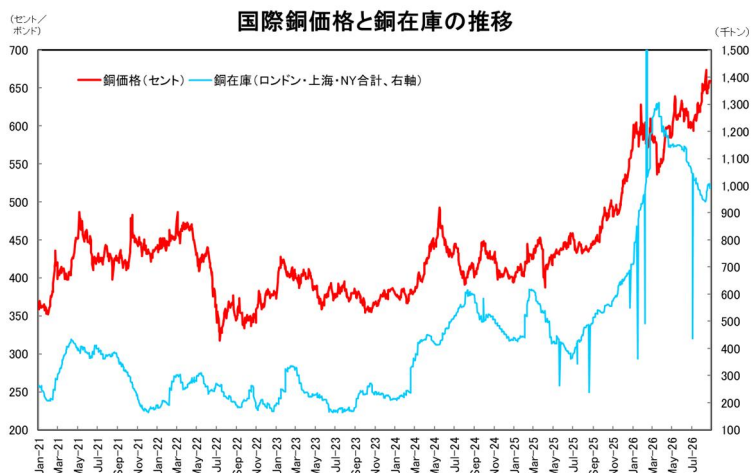
④ 対米貿易（FOB）：８月の貿易額は、輸出額17.2億ドル（前年同月比70.4％）、輸入額16.1億ドル（同43.8％）、貿易総額では33.3億ドル（同56.4％）となった。

2. 市場の動き

(1) 国際銅価格－上昇－

8月の国際銅価格は、1ポンド6.33ドル（3日）で始まった。月末には6.59ドル（31日）と前月末比5.1%で終了した。

8月の銅在庫は、96万4,096トン（3日）で始まり、月末には99万5,156トン（31日）と前月末より増加した。



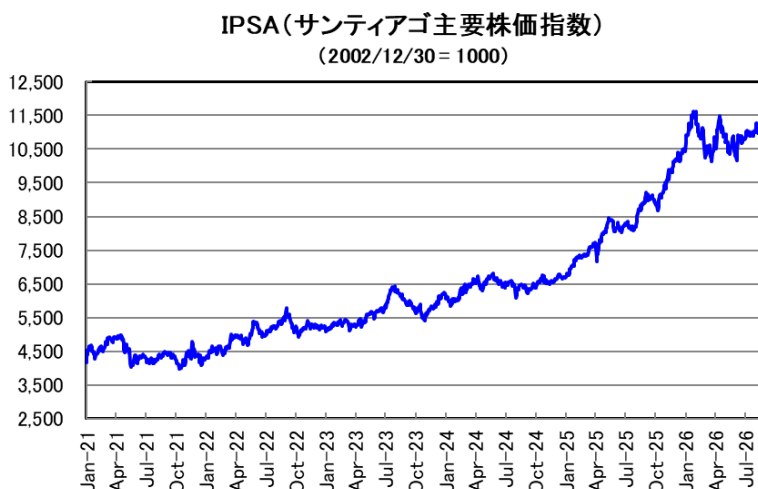
(2) 為替－ペソ安傾向－

8月の為替は、1ドル925ペソ（3日）で始まった。その後、ペソ高傾向で推移した後、ペソ安に転じ、月末には934ペソ（31日）と前月末差5.3ペソのペソ安で終了した。



(3) 株価－上昇－

8月のIPSA値（サンティアゴ主要株式指数）は、11,050ポイント（3日）で始まった。その後上昇し、月末には11,315ポイント（31日）と前月末比2.7%で終了した。



3. 経済トピックス(報道等情報)

(1) 2026年第2四半期のGDP: 中央銀行発表

8月18日、チリ中央銀行は、2026年第2四半期のGDPを公表した。

●2026年第2四半期のGDP

①経済成長率

チリの実質GDP成長率について、直近の2026年第2四半期は前年同期比▲0.2%のマイナスとなった。また、季節調整済の前期比では▲0.0%のマイナスであった。

②支出項目別の内訳及び主な要因

2026年第2四半期のGDPを、支出項目別に見ると、内需は前年同期比0.1%（寄与度0.1%）であった。このうち、消費は前年同期比1.3%（寄与度1.0%）、総固定資本形成は同0.0%（寄与度0.0%）、在庫品増加の寄与度は▲0.9%となっている。また、輸出は前年同期比▲2.1%（寄与度▲0.7%）、輸入は同▲1.6%（寄与度0.4%）となり、外需の寄与度は▲0.3%であった。主な要因は以下のとおり。

〔消費〕

民間最終消費支出は前年同期比1.2%増加しており、特に医療、観光といったサービス消費の寄与が大きかった。政府最終消費支出は前年同期比1.8%の増加となり、主に医療・教育サービスの増加が反映された。

〔投資〕

総固定資本形成は前年同期比0.0%となった。建設投資は、エンジニアリング工事への投資減少の業績の落込みを反映し減少した。他方で、電気・電子機器の購入増加等により設備投資は増加した。また、在庫品投資は減少を記録した。

〔輸出入〕

輸出入は、輸出と輸入の双方減少の結果、GDP成長率にマイナスの効果をもたらした。輸出は前年同期比▲2.1%の減少となり、財輸出においては銅の輸出減少等が反映された。サービス輸出は特に観光分野の影響を受けて減少となった。輸入は前年同期比▲1.6%の減少となり、特に財輸入における燃料、化学製品及び衣類の輸入減少が反映された。他方で、サービス輸入については企業向けサービスに牽引され増加した。

③産業別の内訳及び主な要因

2026年第2四半期のGDPを産業別に見ると、マイナスとなった要因は主に鉱業の動向によるものであった。他方で、個人向けサービスや商業は増加し、鉱業の影響を緩和させた。主な要因は以下のとおり。

〔農林業〕

農林業は、前年同期比▲0.3%の減少を記録した。農業活動は、生食用野菜や一年生作物の生産、特に塊茎類の生産の減少に伴い後退した。果樹栽培は、柑橘類やリンゴの生産量が減少した。他方で、ワイン用ブドウの生産量は増加した。畜産の減少は、家禽及び牛の生産減少が反映された。対照的に、乳製品の生産は増加した。また、製材所向け松材の生産減少により、林業も落込みを見せた。他方で、パルプ産業からの需要増加により、ユーカリの丸太の生産は増加した。

〔水産業〕

水産業は、漁業及び養殖業の活動減少により、前年同期比▲5.9%の減少を記録した。漁業においてはアジ、イワシ等の漁獲量が減少し、養殖業においてはアトランティッ

ク・サーモンの収穫量減少が見られた。

〔鉱業〕

鉱業は、前年同期比 ▲6.4% の減少を記録した。主な要因は銅の生産量減少であり、その他鉱業は成長を示した。銅は、鉱石品位の低下や国内主要鉱山におけるメンテナンス作業による生産減少の影響を受けた。その他鉱業の成長は、リチウム、金及び銀の採掘によって支えられた。

〔製造業〕

製造業は、主に食品生産の減少の影響を受け、前年同期比 ▲0.3% の減少を記録した。他方で、化学製品、石油製品、ゴム・プラスチック製品及び飲料品・タバコの生産は伸びを示した。

〔電気・ガス・水道・廃棄物処理〕

電気・ガス・水道・廃棄物処理は、前年同期比 1.7% の増加を記録した。これは、生産コストの低下に伴う発電における付加価値の増加によるものであり、これとは対照的にガス供給は減少を見せた。

〔建設〕

建設は、前年同期比 ▲3.2% の減少を記録した。特にエンジニアリング工事の減少が大きな影響を与えた。これは、鉱業や海水淡水化プラントなどの投資プロジェクトが終了した結果である。また、建築工事も住宅及び非住宅の双方で減少を見せ、修理需要の減少に伴い専門サービスも減少となった。

〔商業〕

商業は、前年同期比 2.4% の増加を記録した。主な要因は小売業の増加にあり、卸売業及び自動車販売も増加を見せた。小売業は、食料品店、衣料品・靴の専門店及び電子商取引プラットフォームにおける売上が増加し、対照的にスーパーマーケットやガソリンスタンドにおける売上は減少した。卸売業は、特に機械・設備及び家庭用品が増加し、他方で果物の輸出減少の影響を受けて食品の販売が減少した。自動車販売は、軽自動車の販売台数が増加するとともに、整備サービスへの需要も高まりを見せた。

〔運輸〕

運輸は、前年同期比 ▲0.6% の減少を記録した。関連サービスや陸上貨物輸送が減少した一方で、航空輸送や陸上旅客輸送は増加を見せた。

〔通信・情報〕

通信・情報は、前年同期比 0.2% の増加を記録した。これは、主にプログラミング、ITコンサルティングサービスなどの情報サービスの増加によるものであり、有料テレビ加入者の減少による通信部門の活動低下によって一部相殺された。

〔企業向けサービス〕

企業向けサービスは、前年同期比 ▲0.2% の減少を記録した。これは、専門サービス（建築・エンジニアリングサービス等）の減少を管理サービス（賃貸・リースサービス等）が一部相殺した結果である。

〔個人向けサービス〕

個人向けサービスは、医療サービス及び教育サービスの貢献により、前年同期比 2.4% の増加を記録した。

●経常収支

8月18日、2026年第2四半期の経常収支も発表され、結果は▲4億4,100万米ドルの赤字であった。